

【様式】

令和2年度 学校マネジメントシート

学校名 ( 津西高等学校 )

1 目指す姿

|            |               |  |
|------------|---------------|--|
| (1) 目指す学校像 |               | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高い志と広い視野を持ち、社会をリードする人材を育成する学校</li> <li>○ これからの社会を生き、未来を切り拓いていくのに必要な資質、能力を培う学校</li> <li>○ 確かな学力と豊かな人間性を育み、進路希望を実現する文武両道の進学校</li> </ul> |
| (2)        | 育みたい<br>児童生徒像 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習や特別活動、部活動に意欲的に取り組み、社会で生きるのに必要な力とそれを支える確かな学力、豊かな人間性を身につけた生徒</li> <li>○ 高い志を持って主体的に考え、行動するとともに、互いを認め合い、豊かな人間関係を築くことのできる生徒</li> </ul>  |
|            | ありたい<br>教職員像  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 目指す学校像実現のために組織的に取り組み、生徒とともに成長しつづける教職員</li> <li>○ 生徒一人ひとりの可能性を引き出し、生きる力の育成と進路実現のためにサポートを惜しまない教職員</li> </ul>                            |

2 現状認識

|                             |  |   |               |
|-----------------------------|--|---|---------------|
| (1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待 |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>《生徒》</li> <li>○ 学力の向上と学校生活の充実、進路希望の実現</li> <li>《保護者》</li> <li>○ 安心・安全で充実した学校生活と学力の向上、進路希望の実現</li> <li>《地域》</li> <li>○ 地域をリードする人材の育成とそれによる地域の活性化</li> </ul>   |               |
| (2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待    | 連携する相手からの要望・期待   |   | 連携する相手への要望・期待 |
|                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>《中学校》</li> <li>○ 学校や生徒の状況、選抜情報などの情報提供</li> <li>《進学先》</li> <li>○ 確かな学力と主体的に学ぶ力</li> <li>《地域》</li> <li>○ 人材育成と地域貢献</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>《中学校》</li> <li>○ 基礎学力の養成と高校生活への意欲</li> <li>《進学先》</li> <li>○ 自己実現のための連携と情報提供</li> <li>《地域》</li> <li>○ 探究活動への理解と支援</li> </ul>  |               |
| (3) 前年度の学校関係者評価等            |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「地域をテーマとした課題研究」をはじめとする探究活動や主体的・対話的で深い学びにより、生徒が主体的に活動し、意欲的に学ぶようになってきている。その結果、変化の激しいこれからの社会で生きていくことのできる生徒を育てることにつながっている。今後もこれらの取組を続けてほしい。</li> <li>○ 教職員の面倒見がよいこと、文武両道をめざし、勉強だけでなく、部活動など、生徒が好きなことに打ち込めることが津西高校の魅力である。こうした教育活動をこのまま継続してほしい。一方で、教職員の負担は大きいので、予算や人的措置がない中で難しい面もあるが、少しでも教職員の働き方改革を進めてほしい。それが生徒への充実した指導にもつながる。</li> </ul> |               |
| (4) 現状と課題                   | 教育活動   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生徒の多くが勉強と部活動の両立に努めるなど、充実した学校生活を送っている。素直で真面目な生徒が多く、熱心で懇切丁寧な学習指導、進路指導の結果、多数の生徒が国公立大学に進学するなど進路実現を果たしている。</li> <li>○ 確かな学力を身につけ、高い志と広い視野を持ち、主体的に考え、行動する生徒を育成し、難関大学に合格できるよう生徒の可能性を引き出すことが求められる。</li> </ul>  |               |
|                             | 学校運営等  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教職員は生徒一人ひとりの学力向上や豊かな人間性の育成のために、教科指導や進路指導、部活指導をはじめ様々な教育活動に前向きに取り組んでおり、それが生徒の進路実現や地域、中学校の評価につながっている。</li> <li>○ 新しい学力観を視野に入れた高い志と広い視野を持った生徒の育成、社会で生きる力の養成、難関大学合格者増のための組織的取組とシステム構築が課題である。</li> </ul>   |               |

### 3 中長期的な重点目標

|       |  |
|-------|--|
| 教育活動  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高い志と広い視野を持ち、社会で活躍する人材の育成、難関大学合格のための学力向上のために、生徒の可能性を引き出す計画的な教育活動や取組を推進する。</li> <li>○ 主体的・対話的で深い学びや探究活動を通して、確かな学力と社会で生きる力（主体性、協働性、課題発見・解決能力、コミュニケーション能力など）を身につける。</li> <li>○ 命を大切に教育に取り組み、自己肯定感を高め、一人ひとりが大切にされる人権感覚あふれる学校づくりを推進する。</li> </ul> |
| 学校運営等 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高い志と広い視野を持った生徒の育成、社会で生きる力の養成、難関大学合格者増のための体制づくりやシステム構築に取り組む。</li> <li>○ 新しい学力観や高大接続改革を視野に入れ、確かな学力と社会で生きる力を育成するために、授業力向上や研修、カリキュラムの改善に取り組む。</li> <li>○ 教職員が健康で意欲的に働くことができるよう総勤務時間の縮減に取り組む。</li> </ul>   |

### 4 本年度の行動計画と評価

#### (1) 教育活動

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重要取組

| 項目                   | 取組内容・指標   | 結果  | 備考 |
|----------------------|---|---|----|
| 高い志と社会で生きる力を持った生徒の育成 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高い志と広い視野を持った生徒を育成するため、大学、地域等と連携して以下の取組を行う。               <ul style="list-style-type: none"> <li>① 地域をテーマとした課題研究</li> <li>② 津西SPP(サイエンスパートナーシッププログラム)</li> <li>③ 津西グローバルチャレンジプロジェクト</li> </ul> </li> <li>【活動指標】               <ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域をテーマとした課題研究」を始めとする探究活動に計画的に取り組む。</li> </ul> </li> <li>【成果指標】               <ul style="list-style-type: none"> <li>① 「課題研究」の取組に対する生徒の満足度80%以上                   <ul style="list-style-type: none"> <li>※ 開始時からレベルが1P以上上がったと感じている生徒の割合</li> </ul> </li> <li>② 「津西SPP」の取組に対する生徒の満足度90%以上</li> </ul> </li> <li>○ 難関大学合格のための学力の向上や進路指導のために、学校全体で「上位者育成プログラム」に基づく具体的な学習指導、進路指導に取り組む。</li> <li>【成果指標】               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国公立大150名以上、難関大学20名以上、東大・京大1名以上の合格(過年度卒業生を含む)。</li> </ul> </li> <li>○ 校門指導等により、遅刻の防止や挨拶の励行を徹底する。</li> <li>【成果指標】               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 遅刻数前年度比 10%減</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>①1年生、2年生の総合的な探究の時間やLHRにおいて、探究活動に系統性を持たせることで、取組の充実を図った。</li> <li>②新型コロナウイルス感染症により、活動内容に制約があったため、別途内容を検討して実施した。</li> <li>③実施できなかった。</li> <li>① 86% (未達成)</li> </ul> <p>「課題研究を通してつけた力」における自己評価で、開始時からレベルが1P以上上がったと感じている生徒の割合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>②(達成)</li> <li>興味関心を持った85%</li> <li>今後も取り組みたい83%</li> <li>・(ほぼ達成)</li> <li>国公立大 177名</li> <li>難関大学 18名</li> <li>京大 1名</li> <li>・326件(昨年度287件)</li> <li>(未達成)</li> </ul> | ◎  |
| 命を大切に教育の推進           | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業、特別活動など、すべての教育活動を通して一人ひとりが大切にされる「人権感覚あふれる学校づくり」を推進し、自己肯定感を高める。</li> <li>○ 「命を大切に教育」という観点で人権教育、特別支援教育、道徳教育に取り組む。</li> <li>【活動指標】               <ul style="list-style-type: none"> <li>① 主体的・対話的で深い学びや探究活動を推進し、自己肯定感を高める。</li> <li>② 生徒理解と情報共有のためすべての新入生の出身中学を訪問する。</li> <li>③ 特別な支援を要する生徒についてケース会議を実施し、その内容を全教職員で共有するなど、特別支援教育に学校全体で取り組む。</li> </ul> </li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>①「人権総合学習」に探究活動を取り入れ学習の深化を図った。</li> <li>②県内全ての出身中学校を訪問した。</li> <li>③特別支援教育推進委員会を中心に、特別な支援を擁する生徒等について情報共有等を行った。</li> </ul>   | ◎  |

|  |   |                                       |  |
|--|---|---------------------------------------|--|
|  | <b>【成果指標】</b><br>・ 学校生活に対する満足度 90%以上<br><br>○ 交通事故の防止を中心とした交通安全教育を推進する。<br><b>【成果指標】</b><br>・ 交通事故件数 0件 | ・「満足」83.5% (未達成)<br><br><br>・7件 (未達成) |  |
|--|---|---------------------------------------|--|

### 改善課題

・ LHRや「総合的な探究（学習）の時間」における探究活動を1年生にも広げ、主体性や思考力を高める取組を充実した。また、2年生の「地域をテーマにした課題研究」の担当者を総務部内に置き組織化を図った。引き続き「探究的な学び」の充実を進める必要がある。

・ 上位者育成のために、生徒に高い志を持たせ、難関大学合格を実現する指導を学校全体で共有し、より効果的なものにしていく必要がある。

## (2) 学校運営等

**【活動指標について】** 取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

**【成果指標について】** 取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

**【備考欄について】** 「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重要取組

| 項目                 | 取組内容・指標   | 結果  | 備考 |
|--------------------|---|---|----|
| 学力、授業力の向上のための組織的取組 | ○ 高大接続改革に象徴される、これから求められる学力を育成するため、主体的・対話的で深い学びを進める。本校が育成する学力を明確にし、それを全教職員が共有した上で授業研究に取り組む。<br><b>【活動指標】</b><br>① 全教職員が互見授業を実施する(1回/年以上)。<br>② 高大接続改革に対応した作問を行う(1問/実力テスト1回)。<br>③ 「授業アンケート」の実施(2回以上/年)<br>④ 校内外の研修会や他校の授業公開への参加(2回以上/年)<br><b>【成果指標】</b><br>・ 学力が向上したと実感した生徒 90%以上 | ①授業見学週間を取り止めて、年間を通して授業を見学できる体制に変更した。<br>②実力テストにおいて、1回につき1問以上高大接続改革に対応した作問を行った。<br>③生徒・保護者アンケート実施(各1回・授業公開時アンケートは授業公開中止のため中止)<br>④ICT教育に関する校内研修会への参加(3回)<br>・76.4% (未達成) | ◎  |
|                    | ○ ICTの効果的な活用方法の検討を含め、組織的で計画的な学力向上のための取組、進路指導を行う。<br><b>【活動指標】</b><br>① 主任会の実施(3回/年以上)<br>② 進路研修会の実施(4回/年以上)<br>③ 国際科学科運営委員会、学力検討会議の実施(4回/年以上)   | ①8回実施<br>②4回実施<br>③5回実施<br>(運営委2回、学力3回)   | ※  |
| 働きやすい職場環境づくり       | ○ 教職員の総勤務時間の縮減に取り組む。<br><b>【活動指標】</b><br>① 定時退校日の設定。(1回/月)(定時に退校した職員 80%以上)<br>② 部活動休養日の設定。(1回/週)(休養日を設定した部活動100%)<br>③ 会議時間の短縮。(60分以内に終了した職員会議、各委員会80%以上)<br><b>【成果指標】</b><br>① 時間外労働時間の削減(9時間/月減)<br>② 教員の時間外労働の「上限時間」の遵守<br>③ 休暇取得の増加(1人当たり4日/年増)                              | ①1回/月実施。(76.0%)<br>②1回/週設定。(100%)<br>③72.4%(昨年度76.8%)<br><br>①18.2h(昨年度30.2h)<br>(達成)<br>②月45時間超5回以上4名<br>年間330時間超16名<br>③13.98日(昨年度16.39日)<br>(未達成)                    | ◎  |

## 改善課題

- ・「自立した学習者」を育成するため、①高い志を持ち目標達成のための意欲を高める方策、②それを実現するための学習方法など、主任会で協議したところ、週末課題、予習・復習、小テスト学習などの学習時間について、教員と生徒間での意識や実態が乖離している状況が見えてきた。今後は、課題及び土曜課外の在り方や主体性を育成する具体策について引き続き検討し改善していく必要がある。
- ・本年度は新型コロナウイルス感染症の影響や共通テスト導入初年度による想定外の対応等が多かったが、時間外勤務の状況は昨年度より減少した。引き続き、時間外勤務の縮減に取り組む必要がある。

## 5 学校関係者評価

### 明らかになった改善課題と次への取組方向

- ・津西高校の特色を地域の方や小中学生に理解していただく必要がある。そのためには、地域との連携や小中学校との交流をより一層充実して欲しい。
- ・通学路での自転車一時停止なしの横断、2列・3列走行、大声での会話など自転車のルールやマナーが守れていない状況がある。地域の目標となる学校として、小学生たちの見本となるべきマナーを身に付けるよう指導して欲しい。
- ・「地域をテーマとした課題研究」「人権総合学習・人権探究活動」などについては、地域の人と触れあいつつ学習を進めることで、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力等の育成のための大切な学習の機会になっている。また、地域のリーダー育成を目標とする津西高校にとって意義深いものとなっているので、取組を継続して欲しい。
- ・「課題研究」については、一期で完結できないテーマもあるので、後輩が引継ぎ実践まで結びつけるよう工夫をして欲しい。また、組織的な取組となるよう担当部署を置いたことは評価できるが、メリットデメリットがあるので注意が必要である。
- ・「人権総合学習」については、ジェンダーなどのテーマも取り組んで欲しい。また、深い学びになるよう事前学習を充実するとよい。
- ・ICTを活用した授業づくりについては今後効果的な活用を進めて欲しい。また、短期間での整備だったと思われるので、研修会などにより教員のスキルアップに努めとともに、業務効率化や働き方改革にも繋げて欲しい。
- ・時間外勤務時間の縮減については引き続き取り組んで欲しい。教職員の専門性が不要な業務については削減したりSSS（スクールサポートスタッフ）の力を借りたりするなどの対応を進めて欲しい。

## 6 次年度に向けた改善策

### 教育活動についての改善策

- ・主体的・対話的で深い学びを推進するため、令和2年度に整備されたICT機器も活用し、授業改善に取り組む。
- ・「生徒につけたい力」を学校全体で共有し、その力をつけるため、計画的・体系的に「人権探究活動」、「地域をテーマにした課題研究」等の探究活動に取り組む。
- ・計画的な学習指導、進路指導に引き続き取り組み、難関大学の合格者増を図る。
- ・全教育活動をととして「命を大切に教育」を充実し、一人ひとりが大切にされる「人権感覚あふれる学校づくり」を推進する。
- ・交通ルールやマナーについて講習を充実する。学年集会等を通じてその大切さを伝える。

### 学校運営についての改善策

- ・ICT機器の活用については、研修などにより教員のスキルアップを図る。
- ・総勤務時間の縮減を実現するため、業務改善や業務内容の精選に学校全体で取り組むとともに、SSSなどの活用を継続する。